

令和3年度 大阪市立矢田西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

令和3年度 大阪市立矢田西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
実施月日			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	31	57	50	2.1	11.3
	大阪市	—	61	55	5.1	12.3
5月27日	全国	—	64.6	57.2	4.4	11.2

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
実施月日			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	25	63.6	39.4	37.3	34.4	38.6	6.8	6.3	10.7	5.1	5.7
	大阪市	—	65.6	47.5	46.9	42.9	52.9	7.3	5.8	10.7	3.5	3.1
	大阪府	—	63.6	48.2	48.1	41.0	53.2	7.6	5.8	11.2	4.8	3.4
2 年	学校	33	57.1	51.3	61.1	49.5	55.2	11.8	5.6	9.0	5.5	5.6
	大阪市	—	57.5	51.2	59.0	53.8	57.8	12.1	5.6	9.4	1.0	5.5
	大阪府	—	58.8	52.2	60.1	53.1	58.5	11.9	6.4	9.4	6.3	5.6
1 年	学校	23	49.0	53.2	45.1	54.0	50.2	14.2	3.0	7.3	2.8	4.3
	大阪市	—	60.8	56.2	57.2	60.7	62.6	9.7	3.0	6.0	3.8	4.6
	大阪府	—	62.2	—	58.5	—	63.5	9.7	—	6.2	—	4.7

※ 1年生の社会・理科については、「中学生チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
実施月日			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	31	73.5	87.7	112.4	71.6
10月19日	大阪市	—	100.9	108.0	140.3	93.0

令和3年度 大阪市立矢田西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○中学生チャレンジテスト(1・2年生)

＜成果＞

2年生の5教科合計の平均正答率は大阪府と比較して、8.5ポイント下回る結果となった。

1年生の3教科(国語・数学・英語)の平均正答率は大阪府と比較して39.9ポイント下まわる結果となった。

また、チャレンジテストPlus(1年生社会・理科)の2教科の平均正答率は大阪市と比較して9.7ポイント下まわる結果となった。

2年生の数学では大阪府の平均正答率を、社会で大阪市平均を上まわる結果であった。

平均無回答率からは、2年生の全教科で大阪府平均を下まわるなど、問題に最後まであきらめずに取り組んだことがうかがわれた。

＜課題＞

2年生では、社会以外の教科で大阪府平均正答率を下まわり、なかでも理科で3.6ポイント、英語で3.3ポイント下まわる結果となった。

1年生のチャレンジテスト(国語・数学・英語)では大阪府の平均正答率を、チャレンジテストPlus(社会・理科)では大阪市の平均正答率をすべての教科で下まわり、なかでも数学で13.4ポイント、英語で13.3ポイント、国語で13.2ポイント下まわる結果となった。

いずれの学年でも、基礎的内容の定着と語彙力の向上が必要である。

【今後に向けて】

今後も、習熟度別少人数指導やチームティーチングを国語・数学・英語のすべての授業で実施し、引き続き個々に応じたきめ細やかな指導を行い基礎的内容の定着と語彙力の向上の取り組み、学力の向上に努めたい。

また、ICTを活用しながら、学習面において家庭で計画的に学習を進めることができるような指導も進めたい。